

Title	呼吸器疾患と歯科とのかかわり - 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) と歯周病との関連について -
Author(s)	寺嶋, 毅
Journal	歯科学報, 118(3): 235-235
URL	http://hdl.handle.net/10130/4624
Right	
Description	

特別講演 3

呼吸器疾患と歯科とのかかわり

－慢性閉塞性肺疾患（COPD）と歯周病との関連について－

東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授 寺嶋 毅

かつて肺気腫、慢性気管支炎と呼ばれていた疾患は、今日、ひとくくりに慢性閉塞性肺疾患（COPD）と呼ばれる。主な原因は喫煙であり、咳・痰・労作時の息切れをきたし徐々に進行する。世界的にみると、COPDの患者数は2億人、年間死亡者数は300万人と推定されている。我が国でも患者数は約530万人と推定されており、死亡数は2015年には約16,000人、死亡順位10位である。また、COPDは心血管疾患、消化器疾患、糖尿病、骨粗鬆症、うつなどの併存疾患が多く、慢性の全身の炎症疾患ととらえられており、合併症も含めた管理が患者の予後やQOLに影響する。国民のCOPDの認知度は3割未満と低く、健康日本21では10年後の認知度を80%まで向上させることを目標としている。歯周病対策も健康日本21の目標に掲げられているが、喫煙が発症に関与していること、口腔内の慢性炎症のみならず、虚血性心疾患や糖尿病などの全身疾患の発症や進行に影響を及ぼすことなどCOPDと共通点が多い。しかしながら、COPDと歯周病の相互の病態への関与は明らかにされていない。

我々はCOPDにおける歯周病の有病率、および歯周病の病態がCOPD患者の栄養状態や急性増悪に与える影響について検討した。COPD群では非COPD群（喫煙歴あり）や非喫煙群に比較して、残存歯数が少ないこと、歯周病の有病率が高いことが確認された。さらに、歯周病の病態が低アルブミン血症に関与していること、残存歯数が少ないことがCOPDの急性増悪に寄与している可能性が示唆された。

次にCOPD患者における咀嚼機能、咀嚼時の低酸素血症について検討したところ、全身の筋肉量や残存歯数が少ないと咀嚼機能が低下すること、咀嚼時の経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）の低下量が大きいことが判明した。

COPDでは歯周病の合併が多い理由として、加齢、喫煙習慣、口腔内の衛生状態、健康に対する意識などに加えて、全身慢性炎症が相互に関与している可能性がある。COPDと歯周病は、加齢、喫煙習慣など共通の危険因子に加えて、慢性炎症、歯牙の喪失、咀嚼機能の低下、低栄養、サルコペニアなどを介して密に関連していると考えられる。

《プロフィール》



<略歴>

昭和63年 慶應義塾大学医学部卒業
 昭和63年 慶應義塾大学医学部内科学教室研修医
 平成2年 社会保険埼玉中央病院内科医員
 平成4年 慶應義塾大学医学部内科学教室呼吸循環研究室専修医
 平成7年 カナダ British Columbia 大学医学部胸部研究室に研究留学
 平成9年 東京歯科大学市川総合病院内科学講座助手
 平成11年 東京歯科大学市川総合病院内科学講座講師
 平成20年 東京歯科大学市川総合病院内科学講座准教授
 平成21年 慶應義塾大学医学部呼吸器内科非常勤講師兼任

平成23年 千葉県立幕張総合高等学校看護科・専攻科非常勤講師兼任
 平成24年 東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科部長准教授
 平成26年 東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授内科学部長兼任
 平成27年 慶應義塾大学看護学部大学院健康マネジメント研究科非常勤講師兼任

<学会および社会における活動>

Chest 査読委員
 Editorial Board of 'TheScientificWorldJOURNAL'
 Editorial Board of 'Case Reports in Pulmonology'
 Editorial Board of 'Journal of Respiratory Research'
 東京陸上競技協会医事委員
 千葉県社会保険診療報酬請求審査委員会審査委員

<所属学会・役職>

内科学会認定専門医、呼吸器学会認定専門医・指導医、臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、感染症学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター